

旧防波堤(2 島)における鳥類のモニタリング調査 夏季調査(7 月)報告書

2025 年 8 月 一般社団法人 お台場海づくり協議会

1. 調査目的

本調査は、お台場海浜公園内旧防波堤において鳥類の利用状況や経年変化を把握し、鳥類の生息環境保全について検討するための基礎資料とすることを目的とする。

2. 調査対象地域

旧防波堤 2 島及び周辺水域(周辺 50m 程度)

3. 調査期日等

調査期日等を表 1 に示す。

表 1 調査期日等

調査期日	調査時間	天候
令和 7 年 7 月 10 日(木)	8:00~14:00	晴れ

4. 調査方法

各調査項目において、倍率 8~10 倍程度の双眼鏡や倍率 20~60 倍程度の望遠鏡等を必要に応じて使い分けながら調査を実施した。また、(2)~(4)の調査については、調査精度と定量性を確保するため、2 島に調査員を 1 名ずつ配置し、2 島同時に実施した。また、補足調査として(5)の調査を実施した。

(1) 船上センサス

2 島の 50m 程度沖を船舶により定速で周回しながら、2 島及び周辺を観察し、目視または鳴き声等で確認された鳥類の種名、個体数、行動等を記録した。

(2) ラインセンサス

2 島の岸沿いを縦断するセンサスルートを設定し、時速 1~2km 程度の速度で歩きながら目視または鳴き声等で確認された鳥類の種名、個体数、行動等を記録した。センサスルートを各島に1本設定し、観察範囲を片側 50m(両側 100m)とした。

(3) 定点観察調査

2 島の眺望のよい地点に定点を 2 点ずつ設定し、目視または鳴き声等で確認された鳥類の種名、個体数、行動等を記録した。観察半径は 50m 程度、調査時間は各 30 分間とした。

(4) 任意観察調査

2 島の全域を任意に踏査し、目視または鳴き声等で確認された鳥類の種名、個体数、行動等を記録した。

(5) その他

- 自動撮影カメラによる調査

第 5 回秋季調査(※調査回の定義については後述する)においてホンダタヌキのため糞が確認されたことから、島内に生息する生き物の情報を補完するため、同回の冬季調査から自動撮影カメラを西島に1台設置した。なお、本調査で回収したデータの撮影期間は、カメラの不具合により 0 日間であった(第 10 回春季調査～第 10 回夏季調査)。

- その他の生き物の記録

鳥類調査時に特記すべき生き物が確認された場合は、種名、個体数、行動等を記録した。

 船上センサス	 ラインセンサス
 定点観察調査	 任意観察調査
 自動撮影カメラによる調査	

エラー！ 参照元が見つかりません。 各調査手法における調査風景

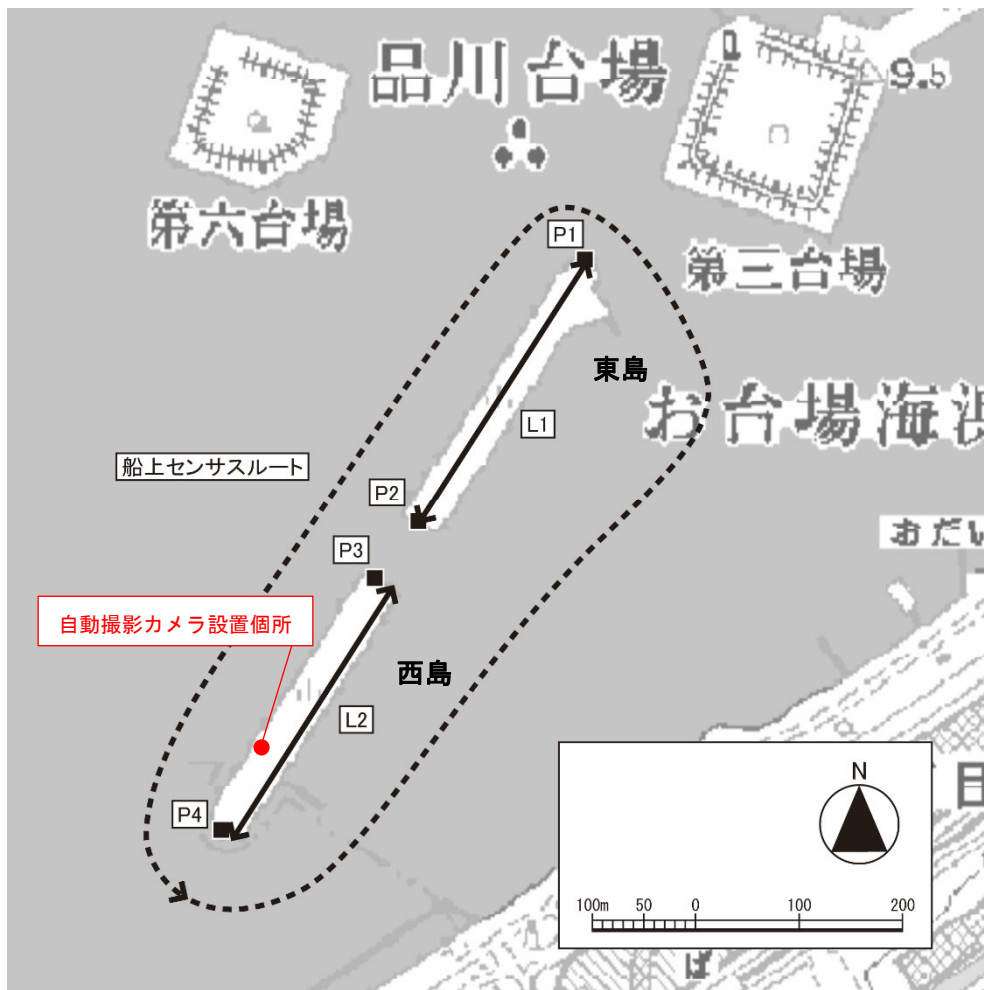


図 1 調査地点

5. 評価方法

(1) 調査回の定義

各調査結果をとりまとめ、過去の調査と比較をすることで、今回の調査結果を評価した。調査回の定義を表 2 に示す。今回は第 10 回の夏季調査にあたる。

表 2 調査回の定義

調査回	調査時期	調査回	調査時期
第 1 回	平成 27 年夏季～平成 28 年春季	第 6 回	令和 2 年秋季～令和 3 年夏季
第 2 回	平成 28 年秋季～平成 29 年夏季	第 7 回	令和 3 年秋季～令和 4 年夏季
第 3 回	平成 29 年秋季～平成 30 年夏季	第 8 回	令和 4 年秋季～令和 5 年夏季
第 4 回	平成 30 年秋季～令和元年夏季	第 9 回	令和 5 年秋季～令和 6 年夏季
第 5 回	令和元年秋季～令和 2 年夏季	第 10 回	令和 6 年秋季～令和 7 年夏季

(2) 重要種の選定根拠

重要種の選定根拠を表 3 に示す。いずれかに該当する種を重要種として記録した。

表 3 重要種の選定根拠

No.	選定資料	カテゴリー
①	「文化財保護法」(昭和 25 年、法律第 214 号)	特天:特別天然記念物 天 :天然記念物
②	「絶滅のおそれのある野生動植物の種の保存に関する法律」 (平成 4 年、法律第 75 号)※以下、種の保存法と記す	国内:国内希少野生動植物種 国際:国際希少野生動植物種
③	「環境省レッドリスト 2020 鳥類」(令和 2 年、環境省) ※以下、環境省 RL と記す	EX:絶滅 EW:野生絶滅 CR+EN:絶滅危惧Ⅰ類 CR:絶滅危惧ⅠA 類 EN:絶滅危惧ⅠB 類 VU:絶滅危惧Ⅱ類 NT:準絶滅危惧 DD:情報不足 LP:絶滅のおそれのある地域個体群
④	東京都の保護上重要な野生生物種(本土部)2020 年版 『東京都レッドリスト(本土部)2020 年版』 (令和 2 年、東京都)※以下、東京都 RL と記す	EX:絶滅 EW:野生絶滅 CR+EN:絶滅危惧Ⅰ類 CR:絶滅危惧ⅠA 類 EN:絶滅危惧ⅠB 類 VU:絶滅危惧Ⅱ類 NT:準絶滅危惧 DD:情報不足 LP:絶滅のおそれのある地域個体群 *:留意種 *①:準絶滅危惧(NT)に準ずる。 *②:人為的な環境配慮により個体群が維持されている。

6. 調査結果

(1) 現地調査結果

鳥類確認種目録を表 4、船上センサス結果を表 5、ラインセンサス結果を表 6、定点観察結果を表 7 に示す。

- 現地調査の結果、6 目 15 科 17 種が確認された(表 4)。
- 確認種の約 5 割が水域及びその周辺に生息する種であり、8 種(コチドリやウミネコ、コサギ等)が確認された。島内では、森林及びその周辺に生息する種として 3 種(シジュウカラ、ヒヨドリ及びカワラヒワ)が確認されたほか、都市部で見られる種として 3 種(ツバメ、ムクドリ及びスズメ)、様々な環境で見られる種として 3 種(キジバト、トビ及びハシブトガラス)が確認された(表 4)。
- 当該地域における渡り区分別にみると、留鳥(旧防波堤で一年中見られる種)の確認種数が最も多く、15 種(キジバトやダイサギ、カワラヒワ等)が確認された。次いで、夏鳥(旧防波堤で夏に見られる種)が 2 種(コチドリ及びツバメ)確認された。
- 重要種は、コチドリ、イソシギ、ウミネコ、ダイサギ、コサギ及びトビの合計 6 種が確認された(表 4)。島内では、護岸で採餌やとまるコチドリ、イソシギ、ダイサギ及びコサギ、広葉樹林と低茎草地にとまるトビが確認された。島内外では、上空及び海上を飛翔するウミネコが確認された。
- 外来種は確認されなかった(表 4)。
- 確認個体数の最も多かった種は、カワウであった。船上センサスでは、両島で合計 396 個体(表 5)、ラインセンサスでは、両島で合計 103 個体が確認され、優占度は東島で 53%、西島では 87%を占めた(表 6)。また、定点観察調査では、両島で合計 153 個体が確認され、優占度は各地点で 38~83%を占めた(表 7)。両島ともに、上空を通過する個体や広葉樹林内にとまる個体が多く観察された。また、西島では海上で遊泳する個体が、東島では護岸で休息する個体が多数確認された。
- カワウに次いで確認個体数の多かった種は、アオサギであった。船上センサスでは、東島で 8 個体、西島で 22 個体、合計 30 個体(表 5)、定点観察調査では、東島で 3 個体、西島で 2 個体、合計 5 個体(表 7)が確認された。西島の護岸にとまる個体が特に多く見られたほか、東島の護岸や砂礫地にとまる個体も確認された。
- 各調査手法のうち、確認個体数が比較的多かった種は、トビ、ハシブトガラス、スズメであった。トビは、定点観察調査において東島で 7 個体、西島で 2 個体(表 7)、ハシブトガラスは、ラインセンサスにおいて両島で合計 7 個体(表 6)、スズメは、ラインセンサスにおいて両島で合計 10 個体(表 6)、定点観察調査において両島で合計 6 個体(表 7)が確認された。トビは、広葉樹林でとまりや上空での飛翔が確認された。ハシブトガラス及びスズメは、広葉樹林内でとまりや飛翔が確認された。

(2) 過去調査との比較

それぞれの前回調査との比較について、表 8 に確認種、表 9 に船上センサス結果、表 10 にラインセンサス結果、表 11 に定点観察結果、表 12 にこれまでの鳥類確認種目録を示す。

- 第 9 回(前回調査)と第 10 回(今回調査)の確認種数は、第 9 回では東島で 18 種、西島で 17 種、合計 18 種、第 10 回では東島で 13 種、西島で 15 種、合計 17 種であった(表 8)。第 9 回及び第 10 回で確認された共通種は 16 種であり、これは第 9 回の確認種全体の約 8 割に相当することから、鳥類相に大きな変化は見られなかった。
- 第 9 回では確認されず、第 10 回で確認された種は、ヒヨドリ 1 種であった(表 8)。ヒヨドリは、これまで夏季調査の第 3 回以降、毎年記録されている種であり、第 9 回では一時的に確認されなかったと考えられる。
- 第 9 回で確認され、第 10 回では確認されなかった種は、カルガモ及びスズガモの 2 種であった(表 8)。カルガモは、これまで夏季調査の第 2 回以降、毎年記録されている種であり、第 10 回では一時的に確認されなかったと考えられる。冬鳥のスズガモは、これまで夏季調査の第 9 回で初めて記録された種であり、夏季における記録が非常に少ないことから、第 10 回では確認されなかったと考えられる。
- 第 9 回より第 10 回で個体数が増加した種は、アオサギ及びトビであった(表 9、11)。アオサギについては、「(1) 現地調査結果」に記載の通り、主に西島の護岸にとまる個体が多く見られたほか、東島の護岸や砂礫地にとまる個体も確認された。本種は第 9 回春季以降、東島を繁殖場所として利用しており、第 9 回で 3 巣、第 10 回で 12 巣の営巣が確認されている。そのため、第 10 回では営巣数の増加から、個体数が増加したと推測される。なお、今回の調査では本種の営巣は確認できず、今シーズンの繁殖活動は終了したと考えられる。一方、トビは主に採餌や休息場所として両島を利用しており、両島で営巣は確認されていないことから、一時的な個体数の増加と推測される。
- 第 9 回より第 10 回で個体数が減少した種は、ムクドリであった(表 9、10、11)。第 9 回の船上センサスでは、27 個体の群れが確認されており、その群れの存在が個体数の増加に寄与したと考えられる。今回の調査では、最大でも 4 個体の記録であり、大きな群れの飛来は確認されなかったため、個体数が減少したと推測される。

(3) その他

- 東島ではハシブトガラスの幼鳥への給餌が、西島ではムクドリ及びスズメの幼鳥の採餌が確認された。これらのことから、両島周辺で繁殖した個体が、両島を採餌場所として利用していると考えられる。

表 4 鳥類確認種目録

No.	目名	科名	種名	渡り区分	調査時期		重要種選定基準			
					夏季(7月)		①	②	③	④
					東島	西島				
1	ハト	ハト	キジバト	留鳥		○				
2	チドリ	チドリ	コチドリ	夏鳥		○				CR
3		シギ	イソシギ	留鳥	○	○				VU
4		カモメ	ウミネコ	留鳥	○	○				*①
5	カツオドリ	ウ	カワウ	留鳥	○	○				
6	ペリカン	サギ	アオサギ	留鳥	○	○				
7			ダイサギ	留鳥	○	○				NT
8			コサギ	留鳥	○	○				VU
9	タカ	タカ	トビ	留鳥	○	○				NT
10	スズメ	カラス	ハシブトガラス	留鳥	○	○				
11		シジュウカラ	シジュウカラ	留鳥	○					
12		ヒヨドリ	ヒヨドリ	留鳥		○				
13		ツバメ	ツバメ	夏鳥		○				
14		ムクドリ	ムクドリ	留鳥	○	○				
15		スズメ	スズメ	留鳥	○	○				
16		セキレイ	ハクセキレイ	留鳥	○	○				
17		アトリ	カワラヒワ	留鳥	○					
合計	6 目	15 科	17 種	-	13 種	15 種	0 種	0 種	0 種	6 種

注 1.分類、配列などは原則として「日本鳥類目録 改訂第 8 版」(令和 6 年、日本鳥学会)に準拠した。

注 2.重要種選定基準は表 3 に従った。

表 5 船上センサス結果

No.	目名	科名	種名	調査時期		合計 個体数
				夏季(7月)		
				東島	西島	
1	チドリ	シギ	イソシギ		1	1
2	カツオドリ	ウ	カワウ	138	258	396
3	ペリカン	サギ	アオサギ	8	22	30
4			ダイサギ	2	1	3
5			コサギ	1		1
6	タカ	タカ	トビ	2	5	7
7	スズメ	カラス	ハシブトガラス	3		3
8		ムクドリ	ムクドリ	2		2
9		スズメ	スズメ	1		1
10		アトリ	カワラヒワ	1		1
合計	5 目	8 科	10 種	9 種	5 種	10 種

注 1. 分類、配列などは原則として「日本鳥類目録 改訂第 8 版」(令和 6 年、日本鳥学会)に準拠した。

表 6 ラインセンサス結果

No.	目名	科名	種名	調査時期				合計 個体数
				夏季(7月)				
				L1(東島)		L2(西島)		
				個体数	優占度	個体数	優占度	
1	ハト	ハト	キジバト		0%	2	2%	2
2	チドリ	シギ	イソシギ		0%	1	1%	1
3	カツオドリ	ウ	カワウ	18	53%	85	87%	103
4	ペリカン	サギ	アオサギ		0%	1	1%	1
5			コサギ		0%	1	1%	1
6	タカ	タカ	トビ	1	3%	4	4%	5
7	スズメ	カラス	ハシブトガラス	6	18%	1	1%	7
8		シジュウカラ	シジュウカラ	1	3%		0%	1
9		スズメ	スズメ	7	21%	3	3%	10
10		アトリ	カワラヒワ	1	3%		0%	1
合計	6 目	9 科	10 種	34	100%	98	100%	132
				6 種		8 種		10 種

注 1. 分類、配列などは原則として「日本鳥類目録 改訂第 8 版」(令和 6 年、日本鳥学会)に準拠した。

表 7 定点観察結果

No.	目名	科名	種名	調査時期								合計 個体 数
				夏季(7月)								
				東島				西島				
				P1		P2		P3		P4		
				個 体 数	優 占 度	個 体 数	優 占 度	個 体 数	優 占 度	個 体 数	優 占 度	
1	ハト	ハト	キジバト		0%		0%	2	3%		0%	2
2	チドリ	シギ	イソシギ		0%	2	6%		0%		0%	2
3		カモメ	ウミネコ	1	2%		0%		0%		0%	1
4	カツオドリ	ウ	カワウ	48	83%	12	38%	65	81%	28	72%	153
5	ペリカン	サギ	アオサギ	1	2%	2	6%		0%	2	5%	5
6			ダイサギ		0%	1	3%		0%	2	5%	3
7			コサギ		0%	1	3%		0%		0%	1
8	タカ	タカ	トビ		0%	7	22%	2	3%		0%	9
9	スズメ	カラス	ハシブトガラス		0%	6	19%		0%		0%	6
10		シジュウカラ	シジュウカラ	3	5%		0%		0%		0%	3
11		ツバメ	ツバメ		0%		0%	2	3%	5	13%	7
12		ムクドリ	ムクドリ		0%	1	3%	5	6%	1	3%	7
13		スズメ	スズメ	2	3%		0%	4	5%		0%	6
14		セキレイ	ハクセキレイ		0%		0%		0%	1	3%	1
15		アトリ	カワラヒワ	3	5%		0%		0%		0%	3
合計	6 目	13 科	15 種	58	100%	32	100%	80	100%	39	100%	209
				6 種		8 種		6 種		6 種		15 種

注 1. 分類、配列などは原則として「日本鳥類目録 改訂第 8 版」(令和 6 年、日本鳥学会)に準拠した。

表 8 前回調査結果との比較：確認種

No.	種名	調査時期			
		夏季(7月)			
		第9回(R5～R6)		第10回(R6～R7)	
		東島	西島	東島	西島
1	カルガモ	○	○		
2	スズガモ	○			
3	キジバト	○	○		○
4	コチドリ	○	○		○
5	イソシギ	○	○	○	○
6	ウミネコ	○	○	○	○
7	カワウ	○	○	○	○
8	アオサギ	○	○	○	○
9	ダイサギ	○	○	○	○
10	コサギ	○	○	○	○
11	トビ	○	○	○	○
12	ハシブトガラス	○	○	○	○
13	シジュウカラ	○	○	○	
14	ヒヨドリ				○
15	ツバメ	○	○		○
16	ムクドリ	○	○	○	○
17	スズメ	○	○	○	○
18	ハクセキレイ	○	○	○	○
19	カワラヒワ	○	○	○	
合計	19 種	18 種	17 種	13 種	15 種
		18 種		17 種	

表 9 前回調査との比較：船上センサス結果

No.	種名	調査時期			
		夏季(7 月)			
		第 9 回(R5～R6)		第 10 回(R6～R7)	
		東島	西島	東島	西島
1	カルガモ	2	0	0	0
2	スズガモ	1	0	0	0
3	イソシギ	3	3	0	1
4	カワウ	117	173	138	258
5	アオサギ	5	8	8	22
6	ダイサギ	0	0	2	1
7	コサギ	0	0	1	0
8	トビ	0	1	2	5
9	ハシブトガラス	1	0	3	0
10	ツバメ	1	0	0	0
11	ムクドリ	0	27	2	0
12	スズメ	3	3	1	0
13	カワラヒワ	0	0	1	0
合計個体数		133	215	158	287
合計島別種数		8 種	6 種	9 種	5 種
合計種数		10 種		10 種	

表 10 前回調査との比較：ラインセンサス結果

No.	種名	調査時期							
		夏季(7月)							
		第9回(R5～R6)				第10回(R6～R7)			
		L1(東島)		L2(西島)		L1(東島)		L2(西島)	
		個体数	優占度	個体数	優占度	個体数	優占度	個体数	優占度
1	キジバト	0	0%	0	0%	0	0%	2	2%
2	イソシギ	0	0%	1	1%	0	0%	1	1%
3	ウミネコ	0	0%	2	2%	0	0%	0	0%
4	カワウ	10	48%	70	76%	18	53%	85	87%
5	アオサギ	0	0%	5	5%	0	0%	1	1%
6	コサギ	1	5%	0	0%	0	0%	1	1%
7	トビ	0	0%	0	0%	1	3%	4	4%
8	ハシブトガラス	3	14%	3	3%	6	18%	1	1%
9	シジュウカラ	2	10%	0	0%	1	3%	0	0%
10	ムクドリ	0	0%	5	5%	0	0%	0	0%
11	スズメ	4	19%	3	3%	7	21%	3	3%
12	カワラヒワ	1	5%	3	3%	1	3%	0	0%
合計	12 種	21	100%	92	100%	34	100%	98	100%
		6 種		8 種		6 種		8 種	

表 11 前回調査との比較：定点観察結果

No.	種名	調査時期															
		夏季(7月)															
		第9回(R5～R6)								第10回(R6～R7)							
		東島				西島				東島				西島			
		P1		P2		P3		P4		P1		P2		P3		P4	
		個体数	優占度	個体数	優占度	個体数	優占度	個体数	優占度	個体数	優占度	個体数	優占度	個体数	優占度	個体数	優占度
1	キジバト	0	0%	1	3%	0	0%	0	0%	0	0%	0	0%	2	3%	0	0%
2	イソシギ	1	1%	2	6%	3	6%	0	0%	0	0%	2	6%	0	0%	0	0%
3	ウミネコ	0	0%	1	3%	1	2%	3	6%	1	2%	0	0%	0	0%	0	0%
4	カワウ	62	84%	15	45%	41	84%	42	84%	48	83%	12	38%	65	81%	28	72%
5	アオサギ	0	0%	0	0%	1	2%	3	6%	1	2%	2	6%	0	0%	2	5%
6	ダイサギ	1	1%	0	0%	1	2%	1	2%	0	0%	1	3%	0	0%	2	5%
7	コサギ	1	1%	0	0%	0	0%	0	0%	0	0%	1	3%	0	0%	0	0%
8	トビ	0	0%	1	3%	0	0%	0	0%	0	0%	7	22%	2	3%	0	0%
9	ハシブトガラス	1	1%	0	0%	0	0%	0	0%	0	0%	6	19%	0	0%	0	0%
10	シジュウカラ	2	3%	0	0%	1	2%	0	0%	3	5%	0	0%	0	0%	0	0%
11	ツバメ	0	0%	0	0%	0	0%	1	2%	0	0%	0	0%	2	3%	5	13%
12	ムクドリ	0	0%	8	24%	0	0%	0	0%	0	0%	1	3%	5	6%	1	3%
13	スズメ	4	5%	4	12%	1	2%	0	0%	2	3%	0	0%	4	5%	0	0%
14	ハクセキレイ	0	0%	0	0%	0	0%	0	0%	0	0%	0	0%	0	0%	1	3%
15	カワラヒワ	2	3%	1	3%	0	0%	0	0%	3	5%	0	0%	0	0%	0	0%
合計	15 種	74	100%	33	100%	49	100%	50	100%	58	100%	32	100%	80	100%	39	100%
		8 種		8 種		7 種		5 種		6 種		8 種		6 種		6 種	

表 12 (1) 鳥類確認種目録 (第 1 回～第 6 回)

No.	種名	調査時期											
		第 1 回 (H27 夏～ H28 春)		第 2 回 (H28 秋～ H29 夏)		第 3 回 (H29 秋～ H30 夏)		第 4 回 (H30 秋～ H31/R1 夏)		第 5 回 (R1 秋～R2 夏)		第 6 回 (R2 秋～R3 夏)	
		東島	西島	東島	西島	東島	西島	東島	西島	東島	西島	東島	西島
1	ハシビロガモ												○
2	オカヨシガモ				○		○		○	○			
3	ヒドリガモ									○	○		
4	カルガモ	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○
5	マガモ		○	○	○		○	○	○				
6	オナガガモ				○	○	○			○			
7	コガモ							○					
8	ホシハジロ						○	○		○	○	○	
9	キンクロハジロ										○		
10	スズガモ	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○
11	ホオジロガモ												
12	ウミアイサ		○					○	○	○			○
13	カッコウ科の一種											○	
14	キジバト	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○
15	オオバン	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○
16	カイツブリ												
17	カンムリカイツブリ	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○
18	ミミカイツブリ			○								○	
19	ハジロカイツブリ	○	○	○	○				○	○	○	○	○
20	コチドリ	○	○		○	○	○			○	○	○	
21	チュウシャクシギ												
22	キョウジョシギ					○	○						
23	ヤマシギ												●
24	タシギ								○				
25	イソシギ	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○
26	キアシシギ									○			
27	ユリカモメ	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○
28	ウミネコ	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○
29	カモメ	○	○			○							
30	セグロカモメ	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○
31	オオセグロカモメ	○	○	○	○	○	○					○	
32	コアジサシ	○	○	○	○	○	○		○				
33	ウミウ												
34	カワウ	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○
35	ゴイサギ					○							
36	ササゴイ		○										
37	アオサギ	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○
38	ダイサギ	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○
39	チュウサギ									○			
40	コサギ	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○
41	ミサゴ	○		○			○		○		○	○	
42	ハチクマ	○											
43	ハイタカ		○		○					○			
44	オオタカ	○		○	○	○	○		○		●	○	●

表 12 (2) 鳥類確認種目録 (第 1 回～第 6 回)

No.	種名	調査時期											
		第 1 回 (H27 夏～ H28 春)		第 2 回 (H28 秋～ H29 夏)		第 3 回 (H29 秋～ H30 夏)		第 4 回 (H30 秋～ H31/R1 夏)		第 5 回 (R1 秋～R2 夏)		第 6 回 (R2 秋～R3 夏)	
		東島	西島	東島	西島	東島	西島	東島	西島	東島	西島	東島	西島
45	トビ	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○
46	サシバ												
47	ノスリ		○	○	○	○		○		○		○	○
48	オオコノハズク												
49	カワセミ			○			○			○		○	
50	チョウゲンボウ		○				○	○					
51	ハヤブサ			○	○	○	○	○	○				
52	モズ			○	○	○	○	○	○	○	○		
53	カケス				○								
54	オナガ			○	○	○	○			○			
55	ハシブトガラス	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○
56	ヤマガラ												○
57	シジュウカラ	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○
58	ヒバリ						○						
59	ヒヨドリ	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○
60	ツバメ	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○
61	ウグイス	○	○	○	○	○	○	○		○	○	○	○
62	オオムシクイ								○				○
63	オオヨシキリ			○		○				○	○	○	
64	メジロ	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	
65	ムクドリ	○	○	○	○	○	○		○	○	○	○	○
66	コムクドリ				○	○							
67	シロハラ	○	○	○	○						●		○
68	アカハラ	○			○			○			○		
69	ツグミ	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○
70	キビタキ	○				○							
71	ジョウビタキ	○		○	○	○	○	○	○	○	○	○	○
72	インビヨドリ	○	○		○		○		○		○		○
73	スズメ	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○
74	キセキレイ			○									
75	ハクセキレイ	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○
76	セグロセキレイ				○								○
77	タヒバリ						○				○		
78	シメ							○				○	
79	カワラヒワ	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○
80	ホオジロ	○		○	○			○		○			
81	アオジ	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○
82	オオジュリン			○						○			
83	ドバト	○	○					○			○	○	○
合計	83 種	41 種	40 種	44 種	47 種	42 種	45 種	38 種	38 種	44 種	41 種	40 種	38 種
		47 種		53 種		51 種		47 種		52 種		48 種	

表 12 (3) 鳥類確認種目録 (第 7 回～第 10 回)

No.	種名	調査時期							
		第 7 回 (R3 秋～R4 夏)		第 8 回 (R4 秋～R5 夏)		第 9 回 (R5 秋～R6 夏)		第 10 回 (R6 秋～R7 夏)	
		東島	西島	東島	西島	東島	西島	東島	西島
1	ハシビロガモ	○	○						
2	オカヨシガモ								
3	ヒドリガモ		○				○		
4	カルガモ	○	○	○	○	○	○	○	○
5	マガモ								
6	オナガガモ	○							
7	コガモ	○				○	○	○	○
8	ホシハジロ		○	○	○	○		○	
9	キンクロハジロ								
10	スズガモ	○	○	○	○	○	○	○	○
11	ホオジロガモ	○							
12	ウミアイサ	○		○	○	○	○	○	○
13	カッコウ科の一種								
14	キジバト	○	○	○	○	○	○	○	○
15	オオバン	○	○	○	○	○	○	○	○
16	カイツブリ			○		○		○	
17	カンムリカイツブリ	○	○	○	○	○	○	○	○
18	ミミカイツブリ								
19	ハジロカイツブリ	○	○	○	○	○		○	
20	コチドリ	○	○	○	○	○	○	○	○
21	チュウシャクシギ		○				○		
22	キョウジョシギ		○				○		
23	ヤマシギ								
24	タシギ								
25	イソシギ	○	○	○	○	○	○	○	○
26	キアシシギ								
27	ユリカモメ	○	○	○	○	○	○	○	○
28	ウミネコ	○	○	○	○	○	○	○	○
29	カモメ								
30	セグロカモメ	○	○	○	○		○	○	○
31	オオセグロカモメ	○	○						
32	コアジサシ								
33	ウミウ								○
34	カワウ	○	○	○	○	○	○	○	○
35	ゴイサギ								
36	ササゴイ								
37	アオサギ	○	○	○	○	○	○	○	○
38	ダイサギ	○	○	○	○	○	○	○	○
39	チュウサギ								
40	コサギ	○	○	○	○	○	○	○	○
41	ミサゴ							○	
42	ハチクマ								
43	ハイタカ					○			
44	オオタカ		●		○	○	○	○	

表 12 (4) 鳥類確認種目録 (第 7 回～第 10 回)

No.	種名	調査時期							
		第 7 回 (R3 秋～R4 夏)		第 8 回 (R4 秋～R5 夏)		第 9 回 (R5 秋～R6 夏)		第 10 回 (R6 秋～R7 夏)	
		東島	西島	東島	西島	東島	西島	東島	西島
45	トビ	○	○	○	○	○	○	○	○
46	サシバ								○
47	ノスリ	○	○		○	○	○	○	
48	オオコノハズク		●						
49	カワセミ	○							○
50	チョウゲンボウ				○				
51	ハヤブサ		○				○		○
52	モズ	○							
53	カケス					○			
54	オナガ								
55	ハシブトガラス	○	○	○	○	○	○	○	○
56	ヤマガラ								
57	シジュウカラ	○	○	○	○	○	○	○	○
58	ヒバリ								
59	ヒヨドリ	○	○	○	○	○	○	○	○
60	ツバメ	○	○	○	○	○	○	○	○
61	ウグイス	○	○		○				○
62	オオムシクイ								
63	オオヨシキリ					○			
64	メジロ	○	○	○	○	○			○
65	ムクドリ	○	○	○	○	○	○	○	○
66	コムクドリ								
67	シロハラ	○	○		○		●		
68	アカハラ				●		○		
69	ツグミ	○		○	○	○	○	○	○
70	キビタキ								○
71	ジョウビタキ	○	○		○	○	○	○	○
72	イソヒヨドリ	○	○	○	○		○	○	
73	スズメ	○	○	○	○	○	○	○	○
74	キセキレイ							○	
75	ハクセキレイ	○	○	○	○	○	○	○	○
76	セグロセキレイ								
77	タヒバリ							○	○
78	シメ								
79	カワラヒワ	○	○	○	○	○	○	○	○
80	ホオジロ			○					
81	アオジ	○	○	○	○	○	○	○	○
82	オオジュリン								
83	ドバト	○	○	○	○	○	○		
合計	83 種	41 種	41 種	33 種	38 種	37 種	38 種	37 種	36 種
		48 種		40 種		45 種		44 種	

注 1. ●: 自動撮影カメラのみで確認された種を示す。



写真 1 (1) 確認された主な鳥類



写真 1 (2) 確認された主な鳥類